

水の学校

武蔵野市

水のほそみち紀行

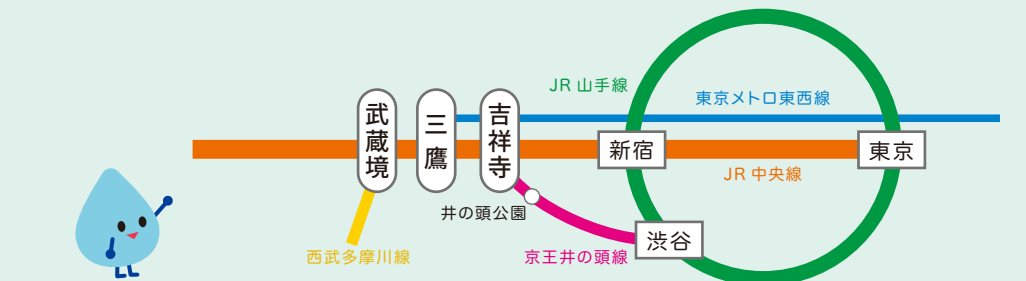
ガイド編

2017年発行
企画・編集：水の学校サポーター有志
NPO 法人雨水市民の会
発行：武蔵野市環境部下水道課

武蔵野市 水環境連続講座「水の学校」
市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える講座として2014年度にスタートしました。連続講座のほか、1回完結型の講座、当日参加ができるイベントなども開催しています。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。

武蔵野市へのアクセス

武蔵野市内へは、吉祥寺・三鷹・武蔵境の3駅が利用できます。



「水の学校サポーター」とは

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループで、2017年3月現在およそ40名が所属しています。
このガイドマップでは、サポーターからの情報や歩いて発見した注目ポイントを「サボメモ」としてガイド面で紹介、マップの該当する場所にナンバーを記載しています。

このガイドマップについて

「水の学校」で実施したまちあるきのルート、講座で紹介された地形やまちの成り立ちと水の関わりについての知識を紹介しています。どうぞガイドマップを片手に武蔵野市をめぐる「水のほそみち」のまちあるきを楽しんでみてください。
もっと知りたい!と思った方は、インターネットで「武蔵野市 水の学校」と検索して、新しいお知らせやこれまでの講座を紹介したニュースレターもご覧ください。
解説の内容は、「水の学校」でまちあるきを行った時点(2014～2016年度)のものです。

まちあるきの前に

- 服装
- 水辺には草むらが多いので、長袖・長ズボンがお勧めです
 - 夏場や晴れた日は帽子を忘れずに
 - 長距離、舗装されていない道も歩ける履きなれた靴で
- もちもの
- 水筒 ・タオル ・虫よけ、虫さされの薬
 - リュックサックのような両手が空くかばん
 - ガイドマップ

仙川発見コース

距離：約4.7km 時間の目安：約60分

一級河川・仙川の武蔵野市内での流れをたどります。水辺の少ない市内で、くらしと水の関わりを過去・現在・未来にわたって考えることができるコースです。

Start! ※マップ編A

① 上水南公園(桜堤2-13)

武蔵境駅より「境2」バス「団地上水端」下車1分

500m

コンクリートの護岸から緑や生き物呼び込む「親水護岸」へとリメイクが行われました。

② 桜堤公園

市の第二浄水場と都の境浄水場から、洗砂水(※)等がここを経由して、リメイク後の仙川上流部へと送られています。
※洗砂水とは、水道水をつくる過程で使用する過材(砂)を洗う水をさします。汚れが少ないので、仙川の流れの再生に活用しています。

③ 仙川緑地

緑地と水辺が一体的に整備され、中央には貯留した雨水を活用した池があります。

④ 亜細亜大学・短期大学の角

亜細亜大を右手に、角まで進むと、仙川の流れが直角に折れ曲がっている様子がわかります。

⑤ 花の通学路(仙川と用水の立体交差跡)

⑥ 武蔵川公園

フットサルやキャッチボールができる公園。フェンス越しに仙川が見えます。

⑦ かわばた公園

⑧ 第2しろがね公園

⑨ みずはけ橋

ここで開きよ部分が終わり、道路を渡った向こう側で仙川は地面の下にもぐって「暗きよ」となります。

⑩ 暗きよ入口

地下にもぐった仙川は、北大通り「境一丁目」交差点から200mほど東でまた地上に現れ、南へ進みます。

⑪ 仙川(三面張り)

市内の仙川下流部は「三面張り」と呼ばれるコンクリートで固められた護岸が続き、今後の整備が待たれます。

⑫ 杵築大社

⑬ 弁天堂

⑭ 武蔵境駅

サボメモ 1

少し北へ足を延ばすと水路跡につくられた「桜堤遊歩道」があります。

リメイク前

リメイク後

かつては用水路だった「花の通学路」。仙川と交わる地点は立体交差になっていました。昭和20年代頃を知る方は用水路で遊んだ思い出がたくさんあるそうです。

サボメモ 2

かつては用水路だった「花の通学路」。仙川と交わる地点は立体交差になっていました。昭和20年代頃を知る方は用水路で遊んだ思い出がたくさんあるそうです。

サボメモ 3

川沿いには、狭いところに根を張りフェンスを突き抜けた木が!

か がわ

この辺りに来るとほとんど流れのない「洄れ川」になり、水辺に近づくことは難しくなります。

サボメモ 4

杵築大社の前にたつて、南北方向を見ると北側が少し高くなっていることや、境南小学校の方に向かってくだっていることがよくわかります。

境内には、池と三多摩地区で2番目に大きな「富士塚」があり、道を挟んで囲まれた「弁天堂」があります。

「仙川リメイク」と未来の仙川

市では「仙川水辺環境整備事業(仙川リメイク)」として、1998(平成10)年から、仙川を4つのパートに分けて整備を進めています。このうち、上水南公園から千歳橋の「自然生態系復活ゾーン」についてはほぼ整備が完了し、浄水場で使用した洗砂水等を送水することで川の流れをつくり、自然石を使った護岸には多くの生き物が戻ってきています。見学时も「初めて来たがとても気持ちいい空間」「散歩にぴったり」という声が聞かれました。
今後は「親水ゾーン(千歳橋～みずはけ橋)」、さらに現在暗きよとなっている「川の道ゾーン」、その下流部の「水辺景観形成ゾーン」へと整備を進めていく計画です。しかし、中流部から先は、十分な水量がなく降雨時以外は洄れ川になっていたり、住宅が近接して川に近づけないところも多くみられ、よりよい水辺環境の創出のために解決しなければいけない課題が多く残されています。

井の頭・玉川上水コース

距離：約6.2km 時間の目安：約80分

神田川源流部から井の頭恩賜公園を経て玉川上水を歩き、「川」と「上水」の特徴を知り、雨の行方について考えるコースです。少し長いのので、三鷹駅を境に前半と後半に分けて歩くのもお勧めです。

Start!

① 井の頭公園駅(京王井の頭線)

井の頭線の線路をくぐり、神田川の流れに沿って歩きます。神田川最上流部の自然護岸は市民の声により今の形に整備されたそうです。

② 神田上水橋

「神田上水」として江戸市中へ飲料水を供給していた名残が橋の名称に残っています。

③ 雨水放流吐口

右岸から左岸の側面を見ると、武蔵野市に降った雨を神田川へと放流している「吐口」があります。川を渡ってフェンスの向こうへ回り込むと詳しい表示を見ることができます。

④ 神田川源流

⑤ 井の頭池

※マップ編D、E

⑥ お茶の水

徳川家康が、この良質な湧水でお茶を点てたことから、この名がついたと言われています。

⑦ 玉川上水

※マップ編C

⑧ 三鷹橋

⑨ 三鷹駅北口緑地

⑩ 野鳥の森公園

⑪ 境浄水場

※マップ編B

⑫ 境橋

⑬ 千川上水

※マップ編B

⑭ 農業ふれあい公園(関前5-19)

武蔵境駅へ徒歩18分、バスで「団口橋」へ2分

サボメモ 5

玉川上水を上流へたどりながら歩く、「上水は背を引く」と言われるように、周囲より小高い尾根筋を通っているのがわかります。

サボメモ 6

ここからの水は武蔵野市内ではなく、都内の別の場所に送り出されていると知ってびっくりしました!

玉川上水と千川上水の分岐点、千川上水の始まりです。江戸時代ここには玉川上水の流れを監視する「水番所」があり、以後も「境水衡所」と呼ばれ、立ち入りができな場所でした。今は小さな公園が設置され、千川上水の取水口を見ることができます。

井の頭池とかいぼり

「かいぼり」とは、ため池の機能を維持するために、水を抜き、魚を捕獲したり、護岸の補修等を行う管理作業の一つです。近年では、都市部の公園池などで、水質改善や生態系の回復を目指して行われる例が増えています。井の頭池では、井の頭恩賜公園が2017年度に開園100周年を迎えることに合わせ、2013、15、17年度と3回にわたりかいぼりを実施する計画があり、現在までに2回のかいぼりが行われています。かいぼりを行ったことで、池底に日光があたり埋土種子から水草が発芽したり、捕食者となる外来魚を捕獲することで、モツゴ、エビ類などの在来種が増加していることが報告されています。
2015年度のかいぼりに合わせ、水の学校サポーターの企画で池底を歩くツアーを行いました。

吉祥寺北町凹地コース

距離：約1.3km 時間の目安：約20分

吉祥寺北町の小さな凸凹を感じるショートコースです。大雨の時に水が集まりやすい理由や、そのために行われている対策を知ることができます。

Start!

① 北町コミュニティセンター(吉祥寺北町1-22-10)

吉祥寺駅よりムーバス吉祥寺北西循環 25「北コミセン前」下車100m

② JR 東日本吉祥寺北町住宅

集合住宅の敷地は盛り土がされ、少し高い位置に建てられています。

③ みやび青葉公園

公園には雨水貯留浸透施設が設置されていますが、集まってくる落ち葉でつまってしまうこともあります。家の前の落ち葉掃除をこまめに行うことで、土地が低くなっている場所での浸水被害を防ぐにつながります。

④ はなもみじ公園

⑤ 成蹊東門通り

⑥ 北町雨水貯留施設(北町保育園)

ムーバス吉祥寺北西循環 25「北コミセン前」へすぐ

サボメモ 7

通り沿いには、階段を数段上ったところに建てられている住宅もあります。

通りに出て、南北・東西をながめると、平坦に思いがちな武蔵野市内の小さなでこぼこを感じられます。

浸水からまちを守る

雨水貯留施設

北町保育園庭地下に集中豪雨時にあふれた雨水を一時的に貯留する施設を設置しました。貯留した雨水は、晴天時に排水ポンプにより下水道管へ放流します。施設への水位計の設置により、水位などが市ホームページからリアルタイムで確認できます。

雨水貯留浸透施設

雨水貯留浸透施設は、下水道管への負担を軽減するため、大雨の際に敷地内に降った雨水を貯留し地下に浸透させていきます。また、地下水のかん養、河川や海の水質保全など「水の循環システム」の改善効果もあります。平成18年度から市内の小・中学校の校庭に雨水貯留浸透施設の設置を進め14校が完了しました。

それぞれの施設の概要については、武蔵野市ホームページをご参照ください。

川を汚さないために

雨水吐口と合流式下水道の改善

武蔵野市には大きな川がないため、下水の処理は他市区に頼っています。市内で排出される汚水は東京都が管理する3つの処理施設(落合、森ヶ崎、清瀬の水再生センター)に送られて処理されています。

下水道には、汚水と雨水を同じ管で流す「合流式」と別々の管で流す「分流式」があります。市内の約9割を占める合流式下水道では、雨天時には構造上の理由により、下水道管や水再生センターの能力を超える未処理の下水が海や川へ放流されます。放流水による水環境への悪影響が近年問題になっており、武蔵野市でも「合流式下水道緊急改善計画」を策定し、平成17～21年度に雨水浸透施設の整備、河川へのきょう雑物(ごみ)の除去を目的に雨水吐き室へのスクリーンの設置を行いました。さらに平成21～25年度の第2期計画で雨水浸透施設の継続的な整備、雨水貯留施設の整備を行いました。

市内3カ所に設置が完了した「合流式下水道改善施設」には、1000～8500㎡の貯留スペースがあり、強い雨の際に一旦雨をためておくことで、河川へ流れ込む汚水まじりの雨水の量を抑えることができ、河川の水質改善に役立っています。ためた汚水混じりの雨水は晴天時に下水道に放流し、水再生センターへ送られ処理が行われます。

本市の合流式下水道改善事業の詳細については、武蔵野市ホームページをご参照ください。

A 仙川

市内唯一の一級河川で、全長は約 20 km。小金井市から始まり、武蔵野市を通過、世田谷区で野川に合流します。市内では流れ川になっている場所もありますが、市が行う「仙川水辺環境整備事業（仙川リメイク※）」により、上水南公園から千歳橋の区間では第2浄水場や境浄水場で使用した洗砂水※等を送水して川の流れを作り、自然石を使った護岸に生き物が戻ってきています。
※仙川リメイク・洗砂水についてはガイド編をご覧ください。

iii 境浄水場

東京都水道局の浄水場として 1924(大正 13) 年から使われています。敷地面積 20 万㎡の広大な施設ですが、独自の水道がある武蔵野市には給水されていません。多摩川の小作取水堰、羽村取水堰から山口貯水池を通じて引き入れた水を原水として、緩速ろ過方式により浄化しています。

B 千川上水

玉川上水を境橋で分水した流れです。武蔵野市と西東京市の市境を流れ、青梅街道を越えてから暗きよとなり、千川通り沿いに豊島区西巢鴨まで達しています。江戸の上水として利用するため元禄 9(1696)年に完成し、その後、灌漑用水(農業用)にも使用されました。明治以降は工業用水にも使用されました。東京都水道局板橋浄水場の廃止などに伴い、1971 年に上水としての使命を終えました。1989(平成元)年より東京都の清流復活事業として、千川上水上流の開きよ部約 5 km に水再生センターからの処理水が流されています。

水の学校

武蔵野市
水のほそみち紀行

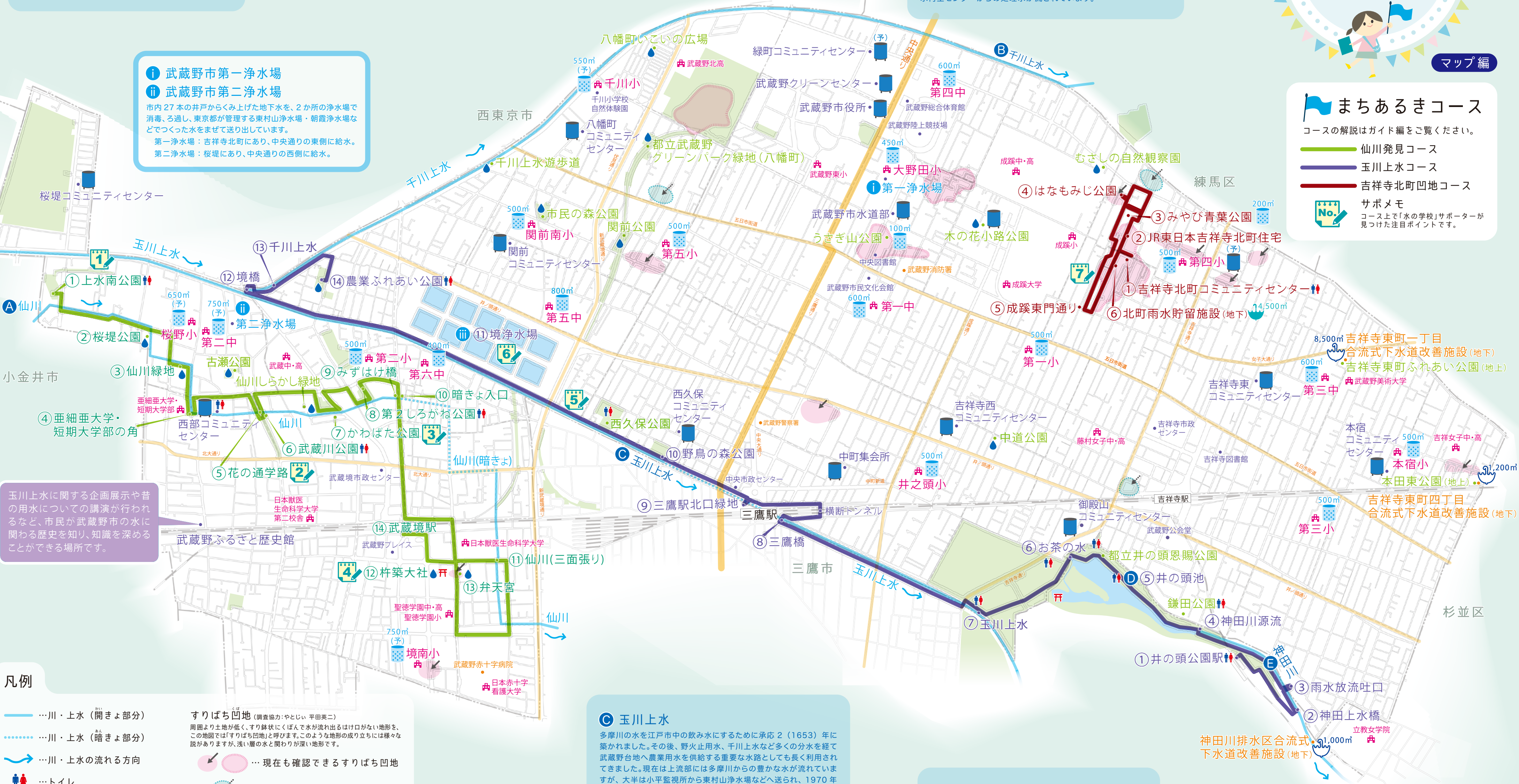
マップ編

まちあるきコース

コースの解説はガイド編をご覧ください。

- 仙川発見コース
- 玉川上水コース
- 吉祥寺北町凹地コース

サポメモ
コース上で「水の学校」サポーターが見つけた注目ポイントです。



凡例

- …川・上水 (開きよ部分)
- …川・上水 (暗きよ部分)
- …川・上水の流れる方向
- …トイレ
- …水辺のある公園・施設

すりばち凹地 (調査協力: やとじ 平田英二)
周囲より土地が低く、すり鉢状にくぼんで水が流れ出るはけ口がない地形を、この地図では「すりばち凹地」と呼びます。このような地形の成り立ちには様々な説がありますが、浅い窪の水と関わりが深い地形です。

- …現在も確認できるすりばち凹地
- …埋め立てや建築で消滅した凹地

雨水管理施設
それぞれの役割はガイド編に解説あり。数字は貯留量。
(予)は 2017 年度以降に設置予定。

- …雨水タンク
- …雨水貯留浸透施設 (主な施設)
- …雨水貯留施設
- …合流式下水道改善施設

i 武蔵野市第一浄水場 ii 武蔵野市第二浄水場

市内 27 本の井戸からくみ上げた地下水を、2 か所の浄水場で消毒、ろ過し、東京都が管理する東村山浄水場・朝霞浄水場などでつくった水をまぜて送り出しています。

第一浄水場: 吉祥寺北町にあり、中央通りの東側に給水。
第二浄水場: 桜堤にあり、中央通りの西側に給水。

C 玉川上水

多摩川の水を江戸市中の飲み水にするために承応 2(1653)年に築かれました。その後、野火止用水、千川上水など多くの分水を経て武蔵野台地へ農業用水を供給する重要な水路としても長く利用されてきました。現在は上流部には多摩川からの豊かな水が流れていますが、大半は小平監視所から東村山浄水場などへ送られ、1970 年代まではこれより下流はほとんど「涸れ川」の状態になっていました。東京都の清流復活事業により、1986(昭和 61)年には、多摩川上流水再生センターからの処理水を小平監視所から放流することで、下流の流れが復活しました。

D 井の頭池

井の頭恩賜公園内にある広さ 42,000 ㎡の大きな池で、かつては豊富な湧水があり、江戸時代には江戸の人々の飲み水に敷設された神田上水 (現在の神田川) の水源の一つとなっていました。1960 年代に枯渇し、水質が悪化し、現在は井戸からくみ上げた水で補給しています。池の水質改善と外来種の防除を目的として、井の頭恩賜公園 100 年実行委員会が 2013(平成 25)年度から「かいぼり」を実施しています。
※「かいぼり」についてはガイド編をご覧ください。

E 神田川

井の頭池を水源として、台東区・中央区・墨田区の境界にある両国橋脇で隅田川に合流する全長 24.6km の一級河川。徳川家康が、江戸市中の飲み水を確保するために自然河川を改修し、井の頭池と善福寺池、妙正寺池を水源とする神田上水を整備したことで、現在の流路となり、かつては「神田上水」と呼ばれていました。現在も神田上水橋の名称などにその名残を見ることができます。